

“海の施工特集”

目次

□巻頭言 海の工事	相良正次	1
海上作業台の現状	竹田正功	4
最近の作業船の現状		
ポンプ浚渫船	高山二郎	11
グラブ浚渫船	両角常美	16
クレーン船	藤井源一	21
くい打ち船	岩間昌昭	25
コンクリートプラント船	松河克洋	28
揚土作業船	松村敏明	35
パイプ敷設船	三宅淳達	40
沈埋函沈設船	岡林生伸	46

グラビヤ—沈埋函建設工事を見る

海底掘削機の現状	田中壬子也	51
水中ブルドーザの現状	佐々木保春	60
新しい海底発破工法	和田満徳	66
潜水技術の現状	清水信夫	74
□随想 インドネシアの旅	三島庸生	81

□建設機械化講座 第128回

現場フォアマンのための土木と施工法

XVII. 建設機械概説

13. 荷役機械(その1)	佐藤忠雄	85
---------------	------	----

□建設機械化研究所抄報 <No. 102>

301. 三菱 MDR-S 50 形スロープタンバ性能試験	94
302. ニッペイ RW 10 形振動ローラ性能試験	95
303. CAT 910 形車輪式トラクタショベル性能試験	97

□文献調査

文献目録紹介	広報部会 文献調査委員会	99
--------	-----------------	----

□支部だより

昭和48年度除雪機械展示実演会開催	東北支部	102
第10回除雪機械展示会開催	北海道支部	103

□統計

建設工事受注額・建設機械受注額		
建設機械卸売価格の推移	調査部会	105

行事一覧		106
------	--	-----

編集後記	(柴田・渡辺)	108
------	---------	-----

◀表紙写真説明▶

昇降式海上作業台“盤石”

石川島播磨重工業株式会社

写真は大口徑掘削機 IHI-WIRTH L-4 S による掘削作業中の昇降式海上作業台“盤石”である。

“盤石”は大水深(50m)でも作業が可能であり、潮流や波浪があっても正確な位置決めと能率のよい作業ができる新形式の昇降式海上作業台である。船体は双胴中空形でよい航抵抗が小さく、中空開口部での作業には高い能率と安全性がある。ジャッキアップ装置は独自開発の IHI-TEETH & TEETH 方式を採用し、大容量(6,000t)のジャッキアップ力を有し、大きな発電容量(350kW×3、24kW×1)と合わせて大形施工機械の搭載が可能である。空中部および水中部からなる位置決め装置は、海洋工事の泣き所であった過酷な海象・気象条件における施工地点の位置決めを精度よく迅速に行うことができ、潮待ち、天候待ちに左右されていた稼働日数を大幅にアップすることができる。